

観世流謡曲 元和卯月本

63-001

63 頼政

国立国会図書館





口手日

是ハ諸國一見乃僧ヲモテ人非ハ

ほとい都よふらして洛陽乃寺社

ありあくたつえりてそてい又是

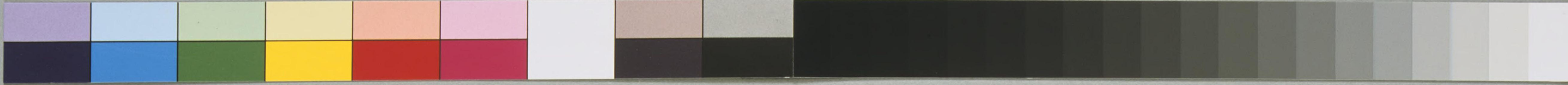
よの南都よまじりてやと思ひん

あり雲乃いありの社つあこしく

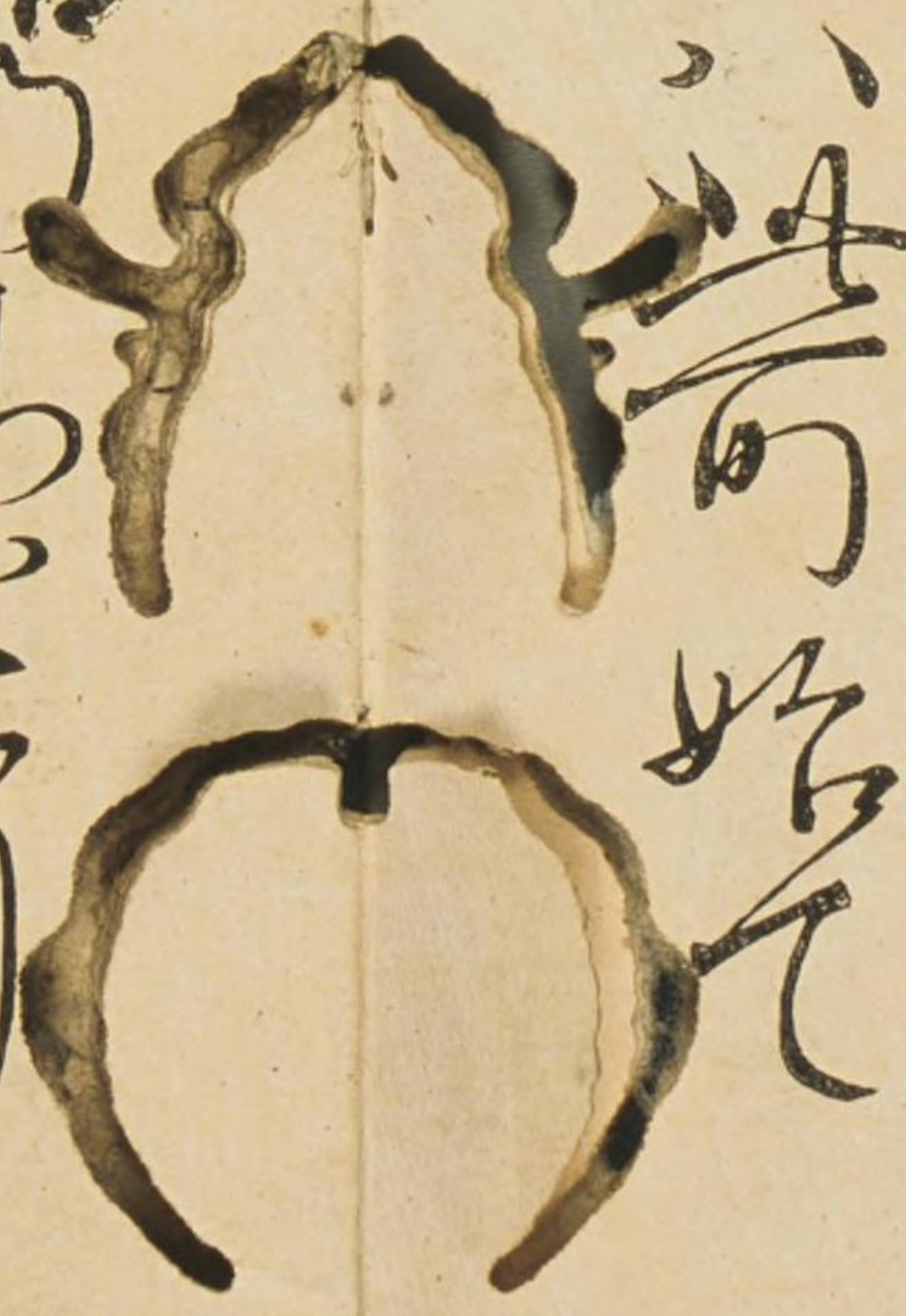
行行末ハ深草や本懐乃をまを

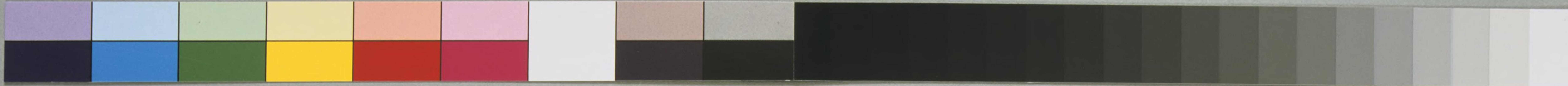
と勢て候えみらりてそてい又是





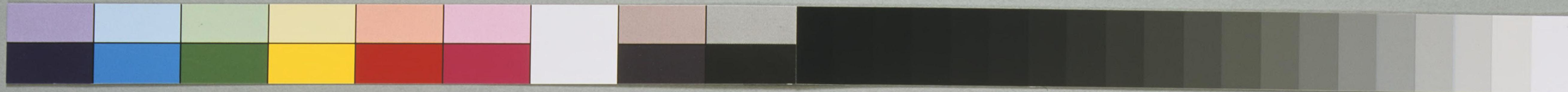
水と尋ねききて宇治の里へ
 着てわがわが（わが）のきこえ
 中及子（中）宇治の里山乃安川
 ありわがわがと橋の親をえ可
 ねほきま前（ま）のわがわがと
 来りてへ（へ）のわがわがと僧
 何事と信（しん）のう（う）はし（し）の始（はじめ）に
 一見乃者（一見乃者）とて宇治の里へ
 来てわがわがのわがわがと教へ
 作（し）の可（か）とす（す）のわがわがと
 宇治の里へわがわがのわがわがと
 山とわがわがのわがわがと橋と
 有（あ）のわがわがのわがわがと
 宇治の里へわがわがのわがわがと





仰々又是成ハ物殿とて面白
 可々そいふくくは後とく^{ハナ}いふく
 花中ろふ所よそ人又是成がまを
 ろれ扇のこもくはあらくては
 げと^{ハナ}なる事よそいふ^{ハナ}ら^{ハナ}人
 此まよ付て物語の^{ハナ}語くまを
 しり人昔此可よ官軍の^{ハナ}る
 源三位頼政合戦よ^{ハナ}ら^{ハナ}を^{ハナ}扇
 志^{ハナ}自容^{ハナ}一^{ハナ}果^{ハナ}あ^{ハナ}ら^{ハナ}ま^{ハナ}は
 名將乃古強あ^{ハナ}れ^{ハナ}ま^{ハナ}あ^{ハナ}つ^{ハナ}の
 あり^{ハナ}よ^{ハナ}あ^{ハナ}あ^{ハナ}ら^{ハナ}て^{ハナ}は^{ハナ}扇^{ハナ}乃^{ハナ}ま^{ハナ}と
 申^{ハナ}依^{ハナ}何^{ハナ}い^{ハナ}ら^{ハナ}や^{ハナ}ら^{ハナ}も^{ハナ}文^{ハナ}武^{ハナ}よ
 名^{ハナ}を^{ハナ}い^{ハナ}人^{ハナ}あ^{ハナ}れ^{ハナ}を^{ハナ}跡^{ハナ}ハ^{ハナ}草^{ハナ}露^{ハナ}の
 道^{ハナ}乃^{ハナ}を^{ハナ}と^{ハナ}あ^{ハナ}つ^{ハナ}て^{ハナ}行^{ハナ}人^{ハナ}ま^{ハナ}い^{ハナ}の^{ハナ}ゆ^{ハナ}





清らき心ありてはなれ

実よは多し物も具宮軍乃

月も日もまよふ憂き心は

何と云くはら月も日もけり

たまたまもや 下ニテ 楓よせを

我ふしう金ありあはれ松人の

葉乃枕の露乃世よす

来りし心もあはれ

やと 夢乃 浮世の平宿の

宇治のりも年をわけて老乃

るももちりたる言人

申頼政の幽言とみ兼も

楓 頼政乃 幽

来りし心もあはれ





上
 思りよる人乃浪ま〜
 此庭か扇のま〜
 等乃契り〜
 依痕の〜
 白又骨〜
 何乃有〜



伊昔長者と〜
 上
 字乃有〜
 地
 端牛乃角〜
 上
 行〜
 是乃乃〜



宇治と河内をて開路乃ら御志
むもさく宮の六度まで御志
よてごらりせ給いまわられ
らるるおの御志もらるる故成て
早木院よりて御志を御
所宇治と河内の中を回らるる
あしきく河内海人御志
ごもよ白旗を御志
歌を御志ごらり 去後よ御志
兵宇治川乃南水の出りよ御志
ごもらるるおの御志乃ら御志
たてて御志乃ら御志
を隔て戦つごらりよ御志
一頼法師ごらり御志

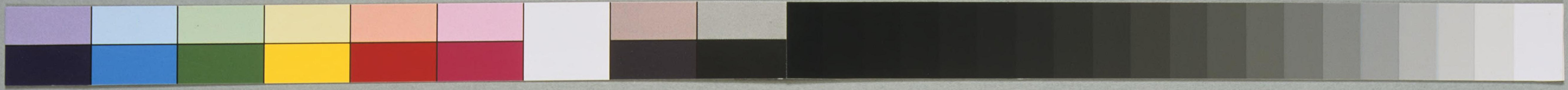




かつて平家乃ち背橋のちしり
 水しりしりしりしりしりしり
 きだたるあつひいすも
 みるる風は富原の又長忠經と
 名乗て治り乃ち陣部ありと
 なれちもあつひ二百金騎 轡を
 うちへら水よどくもたつす

びきぬる村島乃翅をる
 羽音もつと白浪よらつと
 うらつわく信ね志にけぬ度
 きり 忠經つひあつと
 水乃ららぬ可なと
 ありとありと馬をと下
 平よまてつひあつと





だつちよちかつと命すへーとだつ
 一人乃どおよあつてはつちあたら
 むれとも一騎も流すこある乃
 名よ不ゆりそあれし味方の質
 我あうらあももたなり半回計
 おぼしす志らつてまらふらうら
 (まらうら)

ぬて家と家部とたふたふた
 若ほもよ入乱まはれもくも
 たり久し頼政りたのこつる兄
 弟乃者ももしれまはれは
 ちよとりおとくまさと
 ちちよ若武者乃
 思りて
 平等院乃庭の面



是・あ・る・其・乃・う・入・小・廟・と・う・ら・友
よ・あ・ひ・ぬ・ま・ま・そ・て・座・を・く・み・く・方
を・好・ふ・あ・く・ら・ば・も・り・み・を・し
日・を・才・て・埋・本・乃・花・の・も
あ・る・も・ま・ま・る・あ・る・て・い・れ
あ・り・も・あ・ら・ぬ・あ・ら・ぬ・僧・の・お
う・め・あ・ら・る・も・そ・も・地・生・乃

た・の・乃・縁・よ・の・海・廟・乃・ま・の・子
乃・陰・よ・踏・る・そ・の・ま・ま・あ・り・立
か・ら・い・そ・の・ま・ま・わ



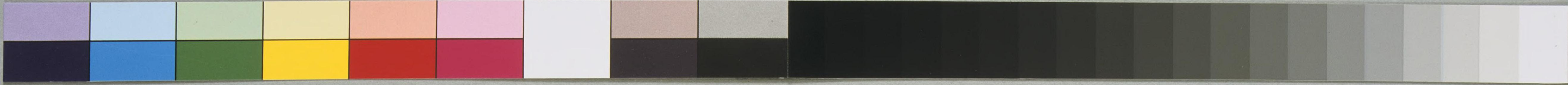
右百番之内有歌小直
傳石岡が左妻の音早句付
依波板起程心今清書
加奥少平

元和六年

觀世左近大夫

卯月日

普深



観世流謡曲 元和卯月本

63-016

63 頼政

国立国会図書館

